

山中きやう共古こ

「吉居きつぎよ雑話」より

平成六年八月五日号

明治の末、吉原教会に山中笑えむ（号を共古きやうこ）という牧師がいました。民俗学者としても知られた彼は、吉原での生活を見聞記録「吉居きつぎよ雑話」としてまとめ、当時の伝説、わらべ歌や年中行事などを紹介しています。今回は、その中に記された、お盆にまつわる行事について紹介します。

吉原では、旧暦の七月一日から三十一日夜まで家々の戸口で、火をたき（杉を細かく割り小さく束ねたものを燃やす）、先祖を祭りま

した。

八朔はっさく（旧暦の八月一日）の朝も火をたきますが、この日は子どもたちが大勢で各戸へ盆灯ろうの紙房をもらいにいき、次から次へ「灯ろうの房おくれ、おくれ」ともらい歩きます。盆ちようちんをともし家でも、ちようちんへ横木を渡し紙房をつけ、七月中は飾りにし、八朔には多数の子どもに与えるようにしました。

（吉居雑話より）

